

### 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本冊子では、2018年3月期上期の連結業績の概要とともに、2020年3月期を最終年度とする中期経営計画の達成に向けた今年度の取り組みについてご報告させていただきます。



代表取締役  
社長執行役員 谷原 徹

### 2018年3月期 上期連結業績

当上期（2017年4月1日～9月30日）の売上高は、製造業や流通業向けシステム開発や通信業向けシステム販売が増加したこと等により、前年同期比3.8%増の163,466百万円となりました。

営業利益は、増収に伴う利益増はあったものの、戦略的事業・サービス提供型ビジネスの推進に向けての各種事業投資関連費用の増加や金融業向け一部大型システム開発案件の立ち上がりの遅れ等の影響があり、前年同期比9.8%減の13,272百万円となりました。経常利益は、営業利益の減少等により、前年同期比9.6%減の14,273百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、子会社株式の譲渡に関連する税効果を計上したものの、期初より想定の前年第1四半期に計上した会計基準変更に伴う税効果の反動減もあり、前年同期比9.4%減の12,034百万円となりました。

## 2018年3月期 通期連結業績予想

当期（2017年4月1日～2018年3月31日）の売上高及び営業利益、経常利益につきましては、顧客企業の堅調な戦略的投資並びに効率化投資需要を背景に、下期以降は金融業向け大型案件の立ち上がりも含めて期初想定以上の業績進捗が想定されることから、2017年4月28日に公表しました当期の業績予想は据え置くことといたしました。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2017年10月30日に公表しております「子会社株式の譲渡に関するお知らせ」にありますとおり、(株)クオカードの株式譲渡による特別利益が発生する見込みとなったことから、以下のとおり修正いたします。なお、詳細につきましては、2017年10月30日に公表しております「子会社株式の譲渡に関するお知らせ」及び「特別利益の発生見込み及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

	修正前	修正後	増減率(前期比)
売上高	3,400 億円	3,400 億円 【修正無し】	3.2%
営業利益	360 億円	360 億円 【修正無し】	6.8%
経常利益	370 億円	370 億円 【修正無し】	2.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	245 億円	335 億円 【+90 億円】	17.7%

## ■ 要約連結損益計算書

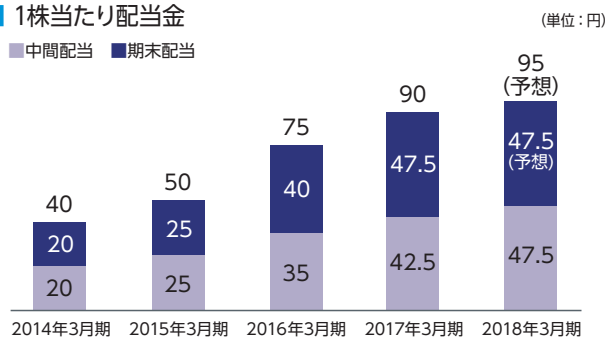
	当上期	増減率
売上高	1,634 億円	前年同期比 3.8%
売上総利益	383 億円	前年同期比 0.3%
営業利益	132 億円	前年同期比 9.8%
営業利益率	8.1%	前年同期比 1.3pt
経常利益	142 億円	前年同期比 9.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	120 億円	前年同期比 9.4%

## ■ 要約連結貸借対照表

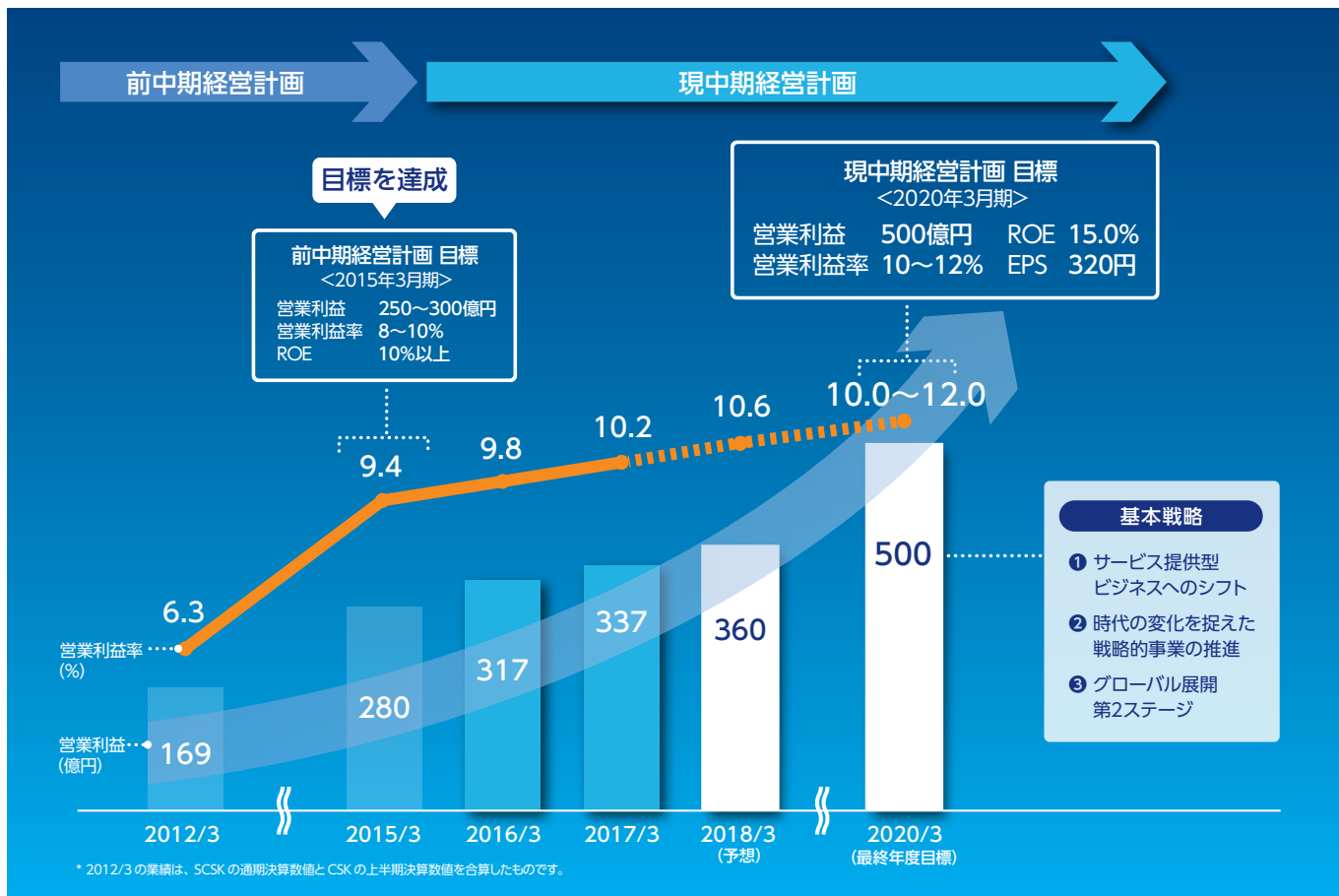
	前期末	当上期末
流動資産	2,723 億円	2,652 億円
固定資産	1,172 億円	1,176 億円
資産合計	3,895 億円	3,828 億円
流動負債	1,839 億円	1,653 億円
固定負債	319 億円	364 億円
負債合計	2,158 億円	2,017 億円
株主資本	1,674 億円	1,745 億円
純資産合計	1,736 億円	1,811 億円
負債及び純資産合計	3,895 億円	3,828 億円

## ■ 1株当たり配当金

■ 中間配当 ■ 期末配当



## 中期経営計画の進捗



### 今年度事業戦略

当社グループは、2016年3月期よりスタートしました5年間の計画期間とする中期経営計画の目標達成に向けて、「サービス提供型ビジネスへのシフト」、「時代の変化を捉えた戦略的事業の推進」、そして「グローバル展開 第2ステージ」の3つの基本戦略を現在積極的に推進しております。当期は、これらの基本戦略に係る事業推進を相応の事業投資を行った上で着実に進めるとともに、さらなる業

務品質の追求や生産性の向上をはじめとする各種経営基盤・収益力強化に向けての取り組みに注力してまいります。足元の堅調なIT投資需要を確実に取り込むことで収益力を維持・拡大するとともに、システム開発事業はもとより保守運用・サービス事業、そしてシステム販売事業の全事業において生産性・業務品質の向上に努め、収益基盤をさらに拡充してまいります。

### サービス提供型ビジネスへのシフト

従来型ビジネスで蓄積した知見を最大限に活用し、高収益で安定した事業体質への転換を図ります。

#### 事例 **顧客とのOne to Oneコミュニケーションを実現する地域金融機関向けアプリ「MINEFOCUS」**

##### FinTechやAIなどの新技術を活用し、 地域金融機関の顧客サービス向上に貢献

近年、金融機関では、既存業務の効率化や知見の有効活用を目的としたFinTech活用が拡大しており、業務システム・サービスへの新技術導入やスマートフォンを活用したアプリの導入が進んでいます。そこでSCSKは、長年培ってきた金融関連ノウハウと、FinTechなどの先進技術を組み合わせ、地域金融機関向けのサービス提供型ビジネスとして、スマートフォンアプリ「MINEFOCUS」を開発しました。

「MINEFOCUS」では、口座開設や周辺店舗ATM紹介といったポータル機能のほか、AIを活用した対話形式のFAQや家計簿、マイページなどの機能も搭載。地域金融機関の新たなチャネルとして、

利用者とのOne to Oneコミュニケーションを強力に支援します。このアプリを通じて、利用者の「相談したい」「話を聞いてみたい」といった思いを喚起し、地域金融機関のビジネス機会の創出に貢献します。

##### 全国の地域金融機関への提供を目指して

「MINEFOCUS」は2016年11月、広島県に本店のある広島銀行様の「ひろぎんアプリ」としてサービスを開始。2017年3月からは、奈良県に本店のある南都銀行様の「南都銀行スマートフォンアプリ」としてもサービスを提供しています。今後も、日常生活と地域に密着したサービスを提供し、愛着を持って利用いただけるスマートフォンアプリへと進化させることで、3年間で20行への提供を目指します。

##### MINEFOCUSの 基本メニュー



**タイムライン**

記事配信、ツイート、チャット、クーポン配信



**アシスタント**

自動応答FAQ、事前ヒアリング、各種通知 など



**銀行ポータル**

家計簿、アプリゲーション、各種試算、口座開設、残高・入出金明細、相談予約 など



**地域ポータル**

店舗ATM検索・クーポン検索 など



**マイページ**

ログイン、SNS連携、各種設定 など

##### 活用例

ユーザーの興味や家計状況からOne to Oneの内容で対話や動画を自動生成、配信して潜在的な欲求を喚起。「相談したい」「話を聞いてみたい」と思った瞬間を逃がさず簡単・便利に地域金融機関様の想定ビジネスゴールに確実に誘導します。

興味関心  
家計簿  
口座

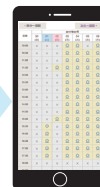
One to One  
メッセージ



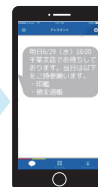
One to One  
動画再生



相談予約  
画面推移



定期的に  
リマインド



家計簿の利用状況に基づく実績レポートを配信、改善ポイントをアドバイスし、ニーズを喚起

### 戦略的事業の推進

車載システム事業に経営資源を集中し、将来的な中核的事業の育成を目指します。

#### 車載システム開発の標準化への取り組み

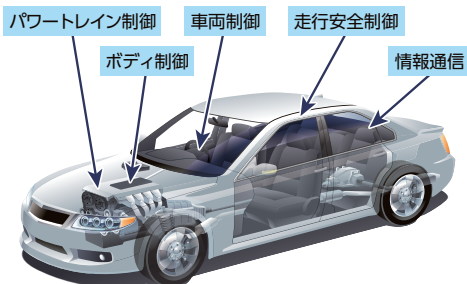
**世界標準規格に対応したBSW\*の開発により、高度化・複雑化する車載システムの開発を効率化**

SCSKは、1970年代からさまざまな業界に向けた組み込みシステムを手掛けており、車載システムにおいても、マイコンが使われ始めた1980年代から開発に携わっています。その領域はエンジンからエアコンやドア、ステアリング、GPS、ナビゲーションに至るまで、ほぼ全域を網羅しており、現在では、日系自動車メーカーに対するECU\*モジュールベース開発において高いシェアを有しています。

近年、車載システムが高度化し、開発プロセスも複雑化するなか、SCSKは、欧州自動車業界のソフトウェア開発標準「Automotive SPICE」に対応し、50名以上の技術者が認定資格を保有しており、確かな経験と実績に基づく知見を蓄積しています。

SCSKは、世界標準規格「AUTOSAR\*」に準拠したBSWの開発・活用にいち早く取り組み、従来のOS、ドライバ、ミドルウェアに相当する階層を汎用化することで開発の効率化を図っています。これまで長年にわたり、金融・製造業界におけるレガシーシステムからオープン化、クラウドへの変遷に直面してきたSCSKならではの経験とノウハウが、こうした変化への対応に活かされています。

#### SCSKの車載システムの開発実績



詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.scsk.jp/product/ecu/index.html>



#### ワンストップサービスの提供

**AUTOSAR準拠の国産ベーシックソフトウェア製品を中心としたワンストップサービス「QINeS®」を提供**

SCSKは、2015年10月より、「QINeS-BSW Ver1.0」の提供を開始しました。現在では、「AUTOSAR Classic PlatformR4.4.2」に対応した車載ベーシックソフトウェア製品「QINeS-BSW Ver2.0」を2017年4月より提供開始しています。高度運転支援に必要なマルチコア対応、セキュリティ、高速通信などのECUソフトウェア機能に対応した製品であり、国内事業者における「AUTOSAR R4.2」に対応したBSW製品としては、本製品が国内初となります。

またSCSKでは、AUTOSAR準拠のBSWに加えて、開発に必要となる周辺サービスもワンストップで提供します。BSWを用いた新たな開発手法やプロセスを支援するほか、プログラムの自動生成やテストの自動化を可能にする開発ツール、教育・活用支援コンサルティングやアプリケーション開発などのサービスも用意しています。サービスを包括的にワンストップで提供することが可能であることから、開発プロセス全体の効率化および高度化の実現に寄与します。

今後も、車載システム開発の効率化・高品質化を通じて、日本の自動車産業の競争力強化に貢献していきます。

\*BSW：Basic Software (ECUのOS、ドライバ、ミドルウェアにあたる部分)

\*ECU：Electronic Control Unit (自動車制御用コンピュータ)

\*AUTOSAR：車載ソフトウェアの標準規格



## ニュース&トピックス

### 子会社株式の譲渡について

当社は、2017年10月30日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社クオカード（以下、クオカード）の全株式を株式会社ティーガイア（以下、ティーガイア）へ譲渡することを決議し、株式譲渡契約を締結いたしました。

当社は、当社の事業ポートフォリオの集中と選択の一環として、中核事業であるITサービス事業へより一層の経営資源の集中を図るべく、クオカードの株式をティーガイアへ譲渡することといたしました。

株式譲渡に伴い、第3四半期連結会計期間において特別利益（投資有価証券売却益）を計上する見込みとなったことから、2017年4月28日に公表いたしました2018年3月期通期連結業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益を90億円増額し、335億円（昨年度比+17.7%）へ修正いたしました。

なお、株式譲渡実行日（2017年12月1日（予定））以降、クオカードが当社の連結範囲の対象から除外されることとなりますが、それに伴う、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益への影響は軽微であります。

2017年10月30日付で公表しております以下のリリースも併せてご確認ください。

- 子会社株式の譲渡に関するお知らせ  
<http://www.scsk.jp/news/2017/pdf/20171030.pdf>
- 特別利益の発生見込み及び連結業績予想の修正に関するお知らせ  
[http://www.scsk.jp/news/2017/pdf/20171030\\_2.pdf](http://www.scsk.jp/news/2017/pdf/20171030_2.pdf)
- 自己株式の消却に関するお知らせ  
[http://www.scsk.jp/news/2017/pdf/20171030\\_3.pdf](http://www.scsk.jp/news/2017/pdf/20171030_3.pdf)

■ 各種ニュースリリースはこちらからご確認ください。→



## 当社IRサイトのご紹介

株主・投資家の皆様とのより良いコミュニケーションを図るため、皆様にとってより便利なサイトづくりと情報開示の充実を目指しております。

SCSK IR

検索

<https://www.scsk.jp/ir/index.html>



### 個人投資家の皆様へ

当社をより深くご理解いただくために、事業の強みをはじめ、事業戦略や業績などをご紹介します。

また、各種IR資料のほか、主要な財務数値・指標の推移を経年比較できるグラフや、株式事務手続きに関する情報などを掲載しております。



### ■ お知らせ

これまで配当通知とともに株主の皆様へお届けしてまいりました中間報告書（本冊子）につきまして、情報開示の適時性および環境への配慮の一環から、今後はホームページにWEB版（PDF）のみ掲載することを検討しております。

なお、これまでの中間報告書（PDF）は、弊社ホームページの以下のサイトよりご覧いただけます。何卒ご理解いただきたくお願い申し上げます。

<https://www.scsk.jp/ir/library/scskreport/index.html>



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
配当金支払 基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告 して定めた日
公告方法	電子公告にて掲載。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本 経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット ホームページURL)	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html</a>

### 免責事項

本報告書は、SCSKグループの業績および事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、SCSKおよびグループ会社の株式購入や売却を勧誘するものではありません。本報告書の内容には、将来の業績に関する意見や予測などの情報を掲載することがありますが、これらの情報は、現時点の当社の判断に基づいて作成しています。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本報告書利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。また、本報告書の無断での複製、転記などを行わないようお願いいたします。

## SCSK株式会社

〒135-8110 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント

